

は し が き

言語センター長 尾形 弘人

『言語センター広報』第28号をお届けいたします。現在、小樽商科大学は、帯広畜産大学、北見工業大学との法人統合を進めていますが、克服すべき問題のひとつに、それぞれの大学間の地理的な距離があります。商学、農学、工学の間で文理融合を目指そうにも、教員が他大学に出向いていくには無理があり、何らかの通信システムを用いた遠隔授業を考える必要があります。そこで注目されたのが、言語センターのデジタルタスク室です。BL (Blended Learning) プロジェクト開始時には考えてもいなかったことですが、確かに、BLで培ってきたICT技術、特に双方向通信授業やデジタル教材作成のノウハウは、目指すところの遠隔授業に活かされるものと大いに期待されます。目下のところ、経済学入門、経営学入門などのオンデマンド教材の試作を進めていますが、外国語科目についていえば、語学で主となるべきはやはり教室でのアクティヴなやり取りですので、今のところ遠隔授業への科目提供は見送っているところです。

さて、令和元年度(平成31年度)の活動を報告いたします。まず、新学期を迎えるにあたり、英語担当教員として、西口純代准教授と三ツ木真実准教授が赴任しました。西口教員は言語学・知能情報学を専門とし、三ツ木教員は外国語教育を主な研究対象としています。他方、本年度末をもって、日本語担当教員の高野寿子特任教授が退職なさいます。平成12年9月の赴任以来、先生には長年にわたり学部留学生および短期留学プログラム参加生の日本語教育にご尽力いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

次にe-learningによるTOEIC対策授業ですが、現在、本学は、1年次生の平均30点アップ(560点)と730点以上の高得点獲得者の倍増(20名)を数値目標としています。平成30年度のIPテストの結果は、730点以上獲得者は前年度の34名から19名に減じましたが、平均点の方は7点向上し568点でした。他方、最低限必要と定めた450点以下の学生は、ここ数年20%弱で推移しており、基礎英語力の修得に特化した授業を検討する時期なのかもしれません。

授業改善のためのFD活動では、外国語Ⅱの履修傾向(英語を週1回とし、英語以外を週2回とする学生が8割に上る)に関するアンケート結果を検討しました。結局のところ、学生の好き・嫌いが率直に反映された結果と受け止めるしかなさそうですが、しかし、履修登録の複雑さ、特に新学期になってからの煩雑さは、改善する余地が大いにありそうです。そこで、来年度よりオリエンテーション期間が廃止されることもあり、翌年度の外国語Ⅱについては、授業担当者、シラバス、時間割が確定する3月のうちに、コースおよびクラス分けを実施することとしました。

次にBlended Learningプロジェクトですが、ショーン・クランキー教員を総合責任者とし、各教員が創意工夫を凝らして取り組むことにより、以下のような成果が得られました。

①デジタルコンテンツとしては、冒頭に紹介した遠隔授業用のオンデマンド教材8本(2科目×4講義)を試作し、年度末までに、さらに8本を作成する予定です。他方、スタジオを利用した学生による課題作成(デジタルプロダクト)は、フランス語のスク립ト音読、英語による小樽観光案内、留学生の日本語ニュース番組など、意欲的な取り組みがなされました。

②「双方向通信授業」については、ルーマニアの通信相手校（トランシルバニア大学、ブラショフ校）が主催するサマースクールに、本年度も5名の学生が参加しました。また、中国語でも、章天明教員が「中国語遠隔教育国際学会」で発表するとともに、北京語言大学、上海大学との双方向通信授業を試行しました。他方、オタゴ大学、ノースジョージア大学とは、本年度はお休みです。

③「異文化ビジネス教育」としては、English Lecture Series（ゲストによる英語での講演）を計4回開催しました。講師のうち3名は、昨年以來赴任した新しい英語教員の高橋優季教員、西口純代教員、三ツ木真実教員です。また、1月15日には、協定校のロシア極東連邦大学のViatchaslev Gavrilov教授を札幌サテライトにお招きし、北海道にも近い極東ロシアの経済的魅力に目を向けたロシアの法整備についてお話しいただきました。

④「外国語を通じた地域貢献」については、佐々木香織教員のゼミ生が、俱知安、ニセコの観光客および外国人居住者のために、地域の医療サービスに関する英語ウェブサイト作成に取り組んでいます。また、上級韓国語の履修者が、李賢峻教員とともに、実地での語学実践として、昨年度作成した「小樽文学館パンフレット」を小樽運河にて配布しました。また、中国語では、昨年度の小樽文学館に引き続き、新たに小樽市総合博物館の「中国語化プロジェクト」に着手し、嘉瀬達男教員、章天明教員の指導の下、簡体字パンフレットを作成しました。

⑤「小中高大全般における英語BLの展開」では、マーク・ホルスト教員が初等英語教育のワークショップを開催し、小樽市の小学校教諭13名の参加がありました（R2.1.15）。また、本取り組みから派生した英語インターンシップ（本学学生による小学校の英語授業の補助）も、市内のふたつの小学校に2名の学生を派遣し、その活動は「Active Learning シンポジウム2019」にて報告されました（R1.12.7）。また、同シンポジウムの分科会「大学におけるグローバル（英語）教育」では、三ツ木真実教員が「なぜ？を考える英語教授法」を発表しました。

最後になりますが、言語センターのHPが年度内に本格オープン予定です。各語系の「商大君」（本学公認キャラクター）も登場しますのでご期待ください。

- サバティカル研修：李賢峻教員（韓国語系）、「植民地表象研究－朝鮮の舞姫崔承喜の視覚メディア資料研究」、コロンビア大学および世宗大学、令和1年10月1日から令和2年9月31日（予定）。
- 「外国人による集中外国語講座」担当講師：リン・アイビー講師（英会話、小樽協会病院特別英会話）／呉秀娟講師（中国語、前・後期）／A・スベヴァコフスキー講師（ロシア語）／千永柱講師（韓国語、前・後期）
- 夜間主「通常授業公開講座」開講科目：ドイツ語／フランス語／中国語／言語学／言語文化論
- English Lecture Series 講師：Viatchaslev Gavrilov氏（ロシア極東連邦大学教授）「Russian legislation aimed at increasing economic attraction of the Russian Far East and practice of its implementation」、高橋優季教員「Where Art meets Literature: Captain Jack Yeat's Search of "living ginger of Life」、西口純代教員「Context change and negation in East-African languages: Dhaasanac and Somali」、三ツ木真実教員「See things from different angles: Important lessons we can learn from Hans Rosling」
- オープンキャンパス「模擬講義」：ダニエラ・カルヤヌ教員、「The future」、李賢峻教員、「韓国語と異文化コミュニケーション」、本学キャンパス、8月8日
- 英語教員免許状更新講座：マーク・ホルスト教員、ダニエラ・カルヤヌ教員、三ツ木真実教員、「英語による教授法（TETE）－コミュニケーションな授業のための教材作成とヒント」、小樽商科大学札幌サテライト、7月27日
- 第31回「教職研究会」：本学を卒業した中学・高校教諭の研究会。本学BL2教室、12月7日（「Active Learning シンポジウム2019」と共同開催）
- 第69回「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」出席：尾形弘人、弘前大学、8月29日、30日、全体テーマ「連携・共創による高等教育・共通教育の新しい課題の検討」